

日 本 ボ ス ト ン 会 会 報

発行所 日本ボストン会事務局 〒227-0045 横浜市青葉区若草台 8-28 Fax047-469-4280

ホイトフィールド・万次郎友好記念館開設へ

顧問 藤 崎 博 也

会報第 32 号で、「ホイトフィールド・万次郎記念館」開設のための募金活動が進められている旨をお知らせしましたが、その後の経過をご報告します。

皆様もよくご承知のことと思いますが、横浜市は今年、開港 150 周年を記念して盛んな行事を開催しています。これは 1853 年に米国のマシュー・C・ペリー提督の率いる東インド艦隊が浦賀に来航し、翌 5 4 年に神奈川で米国全権大使ペリーと徳川幕府との間で日米和親条約が締結調印され、さらにその 4 年後の 1858 年に日米修好通商条約が締結調印された結果、下田・函館の他に神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港が定められ、その後神奈川が発展し横浜となり現在に至ったことを記念するものです。

この日米外交関係樹立に先立つ 1841 年に、土佐の漁師の 14 歳の少年、万次郎(のちの中濱万次郎)が、嵐で漂流し無人の鳥島で飢餓状態のところを米国の捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助され、仲間の漁師 4 人と共にホノルルに送られる 5 ヶ月の間に、捕鯨船のウィリアム・ホイトフィールド船長にその利発さを認められてマサチューセッツ州フェアヘブンの自宅に伴われ、ジョン万次郎と呼ばれて小学校に通わせてもらい、その後、数学、測量、航海術なども学び、捕鯨など数々の経験を積んで、1851 年に渡米第 1 号日本人として帰国しました。

この記念すべき船長の旧宅が、荒れ果てた状態で売りに出されたことを聞かれた聖路加国際病院理事長の日野原重明先生は、08 年 1 月に各界の有識者 36 人を発起人とする「ホイトフィールド・万次郎友好記念館開設のための募金」を始められました。

このことは棚橋征一様からお知らせ頂き、昨年の

観桜会でご紹介し、皆様にご協力を頂きました。

日野原先生はまた、08 年 4 月に学会の用務でボストンに赴かれた際、5 月 6 日にフェアヘブンを訪問され、万次郎が現地の人々から「郷土の英雄」として親しまれ、誇りにされ、万次郎ゆかりの場所が「万次郎トレール」として整備・保存されている実態を見てこられました。

日米の外交交渉が 1853 年に開かれた折に、もしこの万次郎が徳川幕府側の通訳の一人として参画することがなかったならば、その折の外交交渉はどのような進展を遂げていたでしょうか。

「ホイトフィールド・万次郎友好記念館開設募金」は、昨年の NHK の大河ドラマ『篤姫』に万次郎が登場したこともあり、日本開国時の万次郎の働きが世間の共感を呼び、本年 3 月末までに目標をはるかに超える 1 億 1 千万円余が寄せられました。この募金によりホイトフィールド船長の旧宅が購入され、修復後に「ホイトフィールド・万次郎友好記念館」としてフェアヘブんに寄贈されることになり、また、地元の有名ゴルフメーカーが万次郎に因んだロゴ入りボールを作り、その売上げの一部を寄付してくれることになりました。

日米友好のシンボリックな存在としての記念館は、本年 5 月 7 日にフェアヘブンの町に寄贈されましたが、今後はその管理運営を、現地の NGO (土佐清水市との姉妹都市委員会が改組した、「ホイトフィールド・万次郎友好協会」) が担当することになりました。維持管理費は永続的に必要であり、そのための募金は今後も続きますので、引き続き有志の皆様のご支援のほどお願いします。(別項参照)。

総会・懇親会のお知らせ [同封チラシ参照]

日時：平成 21 年 11 月 13 日 (金) 午後 6 時開場、午後 6 時半開会

場所：NEC 三田ハウス芝クラブ (JR 田町駅、都営地下鉄三田駅下車)
港区芝 5-21-7、Tel 03-5443-1400

会費：当日払い お一人 6,000 円 / (同伴者 5,000 円)

事前送金 お一人 5,000 円 / (同伴者 5,000 円)

送金方法：銀行送金 みずほ銀行浜松町支店

普通預金口座番号 1578981 口座名 「日本ボストン会」

申込先：日本ボストン会事務局 (同封ハガキ、又は E-mail にて 11 月 5 日までにお知らせ下さい。E-mail: boston.info@gmail.com)

日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。 <http://www1.biglobe.ne.jp/~boston/>